

宝の山

加藤 誓 (ちかい)

コロナ禍で家に居る時間が多くなった。終活ではないが、あちこちのクローゼットを順番に整理することにした。女房が何時か整理したのだろう、キャンディーが入っていた金属の角缶に、シャープペンシルやボールペン、鉛筆にマーカーペンなどがぎっしり詰まっていた。



もらい物やサービス品もあるが、その都度買ってきて溜まった物が、もったいなくも沢山あった。先日もサインペンを買ってきてしまった。「整理は、地球環境の改善になる」と自戒しながら作業を続けた。今度は、三角定規、分度器、コンパスなど30数年前の子供の文具品が出てきた。3年2組と名前のシールが貼ってあるのもあった。使いかけの絵具や筆に混じって首掛けメダルが何個もあった。メダルには絵画コンテストの名前と期日が記されていた。



子供の物は他にも、沢山出てきた。修学旅行の土産品、卒業記念の文鎮、色々な賞状が入った筒、絵画の束も出てきた。

私は、岡山、島根、広島など25年の間何度も転勤をした。メダルや賞状などに記された文字を眺めながら、子供には随分と迷惑を掛けていたことを、改めて思い知らされた。

一時の休憩の後、再び、次のクローゼットの整理作業に掛かることにした。

何冊もの写真アルバムと、整理をしてない写真の束がドサッと出てきた。



とてもじゃないが、この量の写真を改めてアルバムに貼って整理する気には、とてもならなかった。最近の写真は電子媒体での保存で、整理が簡単に出来て便利である。

ふと思ったが、実家にも親父とお袋、兄弟の幼児期のアルバムが山ほどある。

これらは、捨てるに捨てられないし、残しておいても私の子供や孫には恐らく要らないものであり、どうしたら良いやらと、考えがまとまらない。

次のクローゼットからは、女房、私、子供のカセットテープがこれも山ほど出てきた。恐らく、誰も聞くことはないだろうが、カセットデッキはあるので残しておくことにした。

今度は、押し入れの上段の棚から箱や包み紙を出した。埼玉県鴻巣から直接購入した段飾りのおひな様や武者人形であった。子供が小学生の時までは飾ったが、それ以後はしまったままである。人形は捨てられないので、もう一度元の位置に戻すことにした。

それ以外にも、あちこちから、思いでの詰まった、ガラクタのお宝が沢山見つかった。

「開運,なんでも鑑定団」は、うんちくが好きで良く観るが、これに出品するような品は、我が家にはひとつも見つからなかった。



しかし、今回の整理によって、私にとっては、

値の付けられない宝の山が、我家には沢山あることに気が付いた。

ただ、このお宝の、これからの運命は、どうなるかは不明である。